

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：32510

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320106

研究課題名(和文) 社会言語学的変異研究に基づいた英語会話モジュール開発

研究課題名(英文) Development of English Dialog Modules based on Sociolinguistic Research

研究代表者

関屋 康 (Sekiya, Yasushi)

神田外語大学・外国語学部・教授

研究者番号：20196968

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,200,000円

研究成果の概要(和文)：現在の日本では世界の様々な国から英語教師がやってきて英語を教えている。アメリカ英語を規範とする日本の英語教育においても、世界の多様な英語の特徴を考慮に入れた英語教育を行うことは喫緊の課題である。こうした認識のもと、本科研事業では、アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、カナダ英語、シンガポール英語、アイルランド英語の特徴を動画付きで学ぶことができるウェブ教材(通称「英語モジュール」)を開発した。このウェブ教材は無料で配信されているため、大学の英語教育や言語学関係の授業で用いることができるだけでなく、一般国民が世界の英語の特徴について理解することにも貢献している。

研究成果の概要(英文)：Our team has developed and released a free online learning website which depicts the linguistic and cultural differences in major English varieties of the world. "The English Modules," as it is now called, were conceived with a view to dealing with the problems which educators and learners of English began to face as diversification of English varieties became salient in Japanese educational institutions. The modules of the English varieties of America, UK, Australia, New Zealand, Canada, Singapore and Ireland have been successfully released. Free of subscription and charge, these modules are now used in English language teaching and Linguistics related classes in universities and also viewed by ordinary Japanese people who are interested in differences in World Englishes.

研究分野：英語教育

キーワード：教材 英語モジュール 社会言語学 ウェブ教材 教育メディア 英語変種 世界の英語 英語教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年の日本では、多様な国々から英語教師が来日し、英語教育に従事している。日本の英語教育においても、英語の様々な変種（バラエティ）を考慮に入れた英語教育を行うことは、今も喫緊の課題である。実際、日本の小・中・高等学校に配属される外国語指導助手（ALT：Assistant Language Teacher）の出身国は、多い順に、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、アイルランド、シンガポール、ジャマイカ、と多種多様である。

日本では、一般の大学はもとより、中学校や高校、それに近年、英語教育が導入されるようになった小学校においても、英語の多様性を受け入れる環境が整っていないといえる。アメリカ英語を規範として運営される日本の英語教育の現場に、発音、語彙、綴り字、文法などが異なる多様な英語変種が現在入ってきているため、学習者たちだけでなく、日本人教員も戸惑う状況が報告されている。

(2) 学術的な潮流として、1980年代より英語圏を中心に言語研究、特に社会言語学の分野において世界各地で話される英語変種についての研究、すなわち World Englishes と呼ばれる研究分野が発展してきた。

また、日本においても、1990年代より世界の様々な英語変種に関する学術的研究が現れ始め、とりわけ「アジア英語」への関心が高まってきた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、現代英語の社会言語学的変異に関する研究を行い、その研究成果を英語教育に応用し、世界で使用されている英語の様々な社会言語学的変異を含んだ会話を通じて、現代英語の多様性を学習することができるウェブ教材「英語会話モジュール」を開発し、無料で学習者に配信することである。

そうすることによって、英語を専門とする教育者や大学生だけでなく、中・高校生、社会人など、幅広い層の日本国民が、アメリカ英語以外の世界の英語の多様性に目を向け、それを尊重し、それぞれの英語の特徴を理解する環境をつくることことができる。

3. 研究の方法

(1) 開発対象となる英語変種の調査・分析
開発対象となる英語変種について、音声学や社会言語学などの分野における先行研究を分析し、それぞれの英語に特徴的な社会言語学的変異を選定し、その代表性について複数の研究者からの意見・アドバイスを得た。次に選定された変異を実現する語彙、語法のリストを作成し、実際の英語コーパス（話し言葉と書き言葉の両方を含む）のなかで、それらが言語運用の観点からも変異形と見なされるかどうかを調査した。最終的に英語会話モジュールのなかに記載

されるべき変異形を語彙、語法とともにリスト化した。

(2) 会話スクリプトの作成

TUFS 言語モジュールの40の言語機能（挨拶する、感謝する、注意をひく等）に合う状況設定を行い、上記の変異形を用いた40会話を作成した。会話スクリプトの作成は、当該地域を出身とする研究協力者が担当し、それを本研究の研究者が調整し、当該地域の英語を専門とする海外協力者が監修した。

(3) スタジオ収録

神田外語大学あるいは東京外国語大学でスタジオ収録を行った。アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、カナダ英語のモジュールは、当該国を出身とする神田外語大学 ELI 教員が出演者となり、神田外語大学でスタジオ収録した。シンガポール英語については、シンガポールを出身とする ELI 教員がいなかったため、在日のシンガポール人学生や社会人が出演し、東京外国語大学でスタジオ収録した。

(4) 英語字幕、日本語訳、発音記述、語彙記述
日本人研究協力者（言語研究を専門とする大学院生、あるいは翻訳家）が英語字幕と日本語訳を作成した。また、英語音声学を専門とする日本人研究協力者が動画の音声の発音を分析して記述し、英語学を専門とする日本人研究協力者が当該英語変種に特有な語彙を記述した。それを本科研の研究分担者と代表者が監修した。

(5) ウェブ化

ウェブ化は東京外国語大学の「TUFS 言語モジュール」の「会話モジュール」用のウェブ入力システムを利用し、両大学の技術者がそれぞれのウェブページを作成した。

4. 研究成果

(1) 8つの英語会話モジュールの開発し、そのうち、7つを神田外語大学と東京外国語大学の専用サイトで公開した。（上が神田外語大学サイト、下が東京外国語大学サイト）

アメリカ英語（2012年10月公開）

http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_us.html#/jp-00

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en-us/dmod/>

オーストラリア英語（2013年1月公開）

http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_au.html#/jp-00

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en-au/dmod/>

イギリス英語（2013年5月公開）

http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_uk.html#/jp-00

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en-uk/dmod/>

ニュージーランド英語（2014年2月公開）

http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_nz.html#/jp-00

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en-nz/dmod/>

カナダ英語（2014年10月公開）

http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_ca.html#/jp-00

[/jp-00](#)

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en-ca/dmod/>

シンガポール英語 (2015年7月公開)

http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_sg.html#

[/jp-00](#)

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en-sg/dmod/>

アイルランド英語 (2016年3月公開)

http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_ie.html#

[/jp-00](#)

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en-ie/dmod/>

インド英語

インド英語については、スクリプトをデリー大学(インド)の研究協力者たちが作成する段階までは遂行できたが、資金不足により、完成には至らなかった。

(2) 本科研のテーマを扱ったシンポジウムと講演会を実施した。

シンポジウム「<世界の英語>への招待 イギリス英語とアメリカ英語の違いを中心に」(2012年6月20日、神田外語大学) 登壇者: J. デュラン(海外研究協力者、トゥールーズ大学)、川口裕司(研究分担者)、矢頭典枝(研究分担者)

基調講演“Canadian English and Identity”日本カナダ学会第38回年次研究大会(2013年9月21日、神田外語大学) 講演者: J. K. チェンバーズ(本科研海外アドバイザー、トロント大学)

講演“English at the Canada-United States Border”(2013年9月26日、神田外語大学) 講演者: J. K. チェンバーズ(同)

シンポジウム「TOEIC と英語モジュール」(2014年11月13日、神田外語大学) 登壇者: 神崎正哉(神田外語大学教員)、関屋康(研究代表者)、矢頭典枝、フィリップ・マーフィー(研究分担者)、英語モジュール出演者数名

(3) 本科研で開発した英語<会話>モジュールの内容を材料として、<語彙モジュール>と<発音モジュール>をいくつか開発した。

アメリカ英語とイギリス英語の語彙の違い

アメリカ英語とイギリス英語の発音の違い

オーストラリア英語とニュージーランド英語の語彙の特徴

オーストラリア英語とニュージーランド英語の発音の特徴

カナダ英語の語彙の特徴

カナダ英語の発音の特徴

シンガポール英語の語彙と語法の特徴

(4) 雑誌論文を29本、学会等における発表を32件輩出した。なかでも、本科研の研究代表者・分担者と数名の協力者がそれぞれ寄稿し、『グローバル・コミュニケーション研究』第2号のなかで「英語モジュールと社会言語学の変異研究」と題する特集を組んだ。

5. 主な発表論文等

【雑誌論文】(計29件)

関屋 康、矢頭 典枝、フィリップ・マーフィー「KANANDA×TUFS 英語モジュール—開発の意義と特徴—」関屋康、矢頭典枝、フィリップ・マーフィー、『グローバル・コミュニケーション研究』第2号、2015、1-18

http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/labo/gci_top/ommon/pdf/gcs_2015/gcs_001-017.pdf

川口裕司「TUFS 言語モジュールと言語変異」『グローバル・コミュニケーション研究』第2号、2015、19-42

http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/labo/gci_top/ommon/pdf/gcs_2015/gcs_019-041.pdf

矢頭典枝「英語モジュールに見るカナダ英語の特徴」『グローバル・コミュニケーション研究』第2号、2015、73-92

http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/labo/gci_top/ommon/pdf/gcs_2015/gcs_073-091.pdf

斎藤弘子“Vowel Shifts of English”『グローバル・コミュニケーション研究』第2号、2015、93-102

http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/labo/gci_top/ommon/pdf/gcs_2015/gcs_093-102.pdf

吉富朝子「世界の英語変種と第二言語用論に対する意識を高めるための統合型学習のすすめ: 国際英語のコミュニケーション能力を養うために」*Computer & Education*, 39巻、2015、26-31

【学会発表】(計32件)

関屋康 シンポジウム「提案された英語教育のコア・カリキュラムをどう生かせるか - 課題と期待」文部科学省 英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業(2016年2月27日、文部科学省3階講堂)

関屋康、矢頭典枝 “Online pronunciation materials for World Englishes”JALT(全国語学教育学会)第41回(2015年度)国際大会(2015年11月23日、静岡グランシップ)

関屋康 “Pronunciation Instruction in English as an International Language in the Japanese EFL context” JACET(大学教育学会)第54回国際大会(2015年8月31日、鹿児島大学)

周 育佳、吉富朝子「受験者のテストに対する妥当性の評価、受験者の動機づけとテスト・パフォーマンスの関係」外国語教育学会第19回研究報告大会(2015年11月29日、東京外国語大学)

吉富朝子「確かな日本の英語教育改革をめざして」関西英語教育学会第20回研究大会(2015年6月14日、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス)

【図書】(計10件)

矢頭典枝 他、神田外語大学出版局『知っておきたい環太平洋の言葉と文化』2016、153

吉富朝子 他、アルク出版『コミュニカティブな英語教育を考える: 日本の教育現場に役立つ理論と実践』2014、200

齋藤弘子 他、大修館書店『改訂新版 初級英語音声学』2013、153
関屋康 他、神田外語大学出版局『英語学習手帳 2013』2013、150
矢頭典枝 他、明石書店『カナダを旅する 37章』2012、320

〔産業財産権〕
出願状況（計0件）
取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ

「神田外語大学×東京外国語大学英語モジュール」専用サイト

<http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html>

「東京外国語大学言語モジュール 英語」専用サイト

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en/>

メディア掲載

2013年6月1日付、朝日新聞

「神田外語大学が6月20日に、東京外国語大学との共同開発による無料インターネット教材「世界の英語モジュール」を公開——記念講演会も同日開催

http://www.asahi.com/and_M/information/press_release/CPRAP11807.html

2013年7月17日付、産経新聞

「「世界の英語」動画教材 神田外語大学」

2013年8月7日付、千葉日報

「世界の英語 違い知って 神田外大、東京外大と無料教材」

<http://www.chibanippo.co.jp/news/local/150452>

2014年11月13日付、朝日新聞

「英語の「方言」学んでみない？ 神田外語大が専用サイト動画活用」

2015年11月発行、AERA English2015年秋冬号

「TOEIC リスニングの難関はこうして突破 オージー発音ナルホド攻略法」

http://publications.asahi.com/ecs/detail/?item_id=17456

6. 研究組織

(1) 研究代表者

関屋康 (SEKIYA, Yasushi)

神田外語大学・外国語学部教授

研究者番号：20196968

(2) 研究分担者

川口裕司 (KAWAGUCHI, Yuji)

東京外国語大学・その他部局等・教授

研究者番号：20204703

齋藤弘子 (SAITO, Hiroko)

東京外国語大学・その他部局等・教授

研究者番号：10205669

吉富朝子 (YOSHITOMI, Asako)

東京外国語大学・その他部局等・教授

研究者番号：40272611

矢頭典枝 (YAZU, Norie)

神田外語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：10512379

フィリップ・マーフィー (Murphy, Philip)

神田外語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：30306419

(3) 連携研究者 なし

(4) 海外アドバイザー

J.K. チェンバーズ (トロント大学)

(5) 海外研究協力者

J. デュラン (トゥールーズ大学)

(6) 研究協力者 (計62名)

英語字幕、日本語訳、発音記述、語彙記述 (3名)

新城真里奈 (神田外語大学)、川島 (笹原)

志保美 (日本女子大学)、黒岩健人 (黒岩通訳翻訳事務所)

スクリプト作成 (20名)

アメリカ英語2名、イギリス英語5名、オーストラリア英語3名、ニュージーランド

英語1名、カナダ英語2名、シンガポール

英語3名、アイルランド英語1名、インド

英語3名

動画出演者 (31名)

アメリカ英語4名、イギリス英語6名、オーストラリア英語5名、ニュージーランド

英語3名、カナダ英語6名、シンガポール

英語4名、アイルランド英語3名

動画撮影・編集・ウェブデザイン技術者

(8名)

中村道明、大澤篤、今岡幸美、小泉真里、

的場洋介、益田明菜 (神田外語大学)

大村香、梅野毅 (東京外国語大学)